

## < 口腔の役割 >

---

### 「龍の歯」の正体

漢方では「竜骨(りゅうこつ)」という生薬をしばしば用います。竜骨はナウマン象や牛、馬、鹿などの大型哺乳動物の化石をいいます。科学の発達していなかったはるか昔、中国では地中から出てくるマンモスやナウマン象などの化石を竜の骨と信じ、尊ばれていました。諸説ありますが、これらの大きな頭部の化石からイメージを膨らませて伝説の生き物、竜(龍)が創られたといわれます。

「シルクロードの終着点」と呼ばれる奈良の正倉院。8世紀に東大寺の倉庫として建立され、聖武天皇の遺愛品を中心に約9000点もの宝物が現在まで伝えられています。その中には数多くの薬物が納められています。実はそこにも「竜骨」が保管され、さらに一見、薬とは思えない重さが4.7キログラムもある象の歯の化石も納められています。1200年前、美しく五色に輝くその化石は「五色龍歯(ごしきりゅうし)」と名づけられました。歴史のロマンを感じます。五色龍歯は竜骨と同様に鎮静作用の他、精神を安定させるといわれています。

古来、竜は神聖、高貴、幸運、力強さの象徴で竜骨には霊的な力があるともされてきました。竜の体の一部を取り入れたと考えただけで、特別な効力を得られた気持ちになるのかも知れません。

正倉院の薬物は光明皇后が病人に分け与えるために東大寺に献納したと言い伝えられています。光明皇后は今日の病院にあたる施設を作るなど救済事業に尽力しましたが、五色龍歯もその一つとされ、一緒に保管されている「種々薬帳(しゅじゅやくちょう)」の文末には「病に苦しむものがあれば取り出して使いなさい」というメッセージが記されています。五色に輝くこの化石は、奈良時代における疫病との闘いを今も伝え続けています。



大津市指定文化財 龍骨図・伏龍骨之図 個人蔵



五色龍齒(令和2年 第72回正倉院展 奈良国立博物館 リーフレットより)

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

